

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 鴨生田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

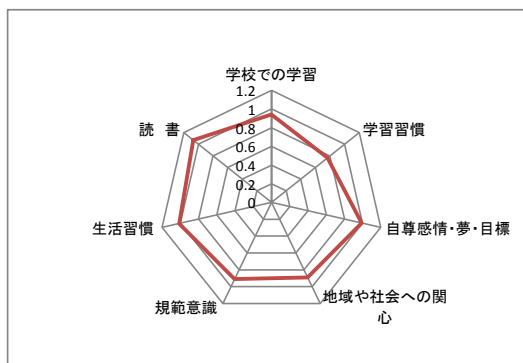
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率をやや下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の平均正答率より上昇した。</li> <li>学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く問題は、正答率が高い。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合う問題は、正答率が低い。</li> </ul>	
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の平均正答率より上昇した。</li> <li>叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができるように、書かれていることを関係付けて読むことを習慣化する必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す問題は、正答率が高い。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる問題は、無回答率が高く、正答率も低い。</li> </ul>	
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の平均正答率より上昇した。</li> <li>図形の性質の理解に課題があり、構成・分解などの活動を通して理解を深める必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法と乗法の混合した整数と小数の計算の問題や、商を分数で表す問題は、正答率が高い。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意単位による量の測定や、面積を求めるための構成要素の関係についての理解に課題がある。</li> </ul>	
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率をわずかに上回ることができた。</li> <li>示された数量関係を捉え、きまりを見付けることに課題があり、立式の根拠や式の意味を考えることを習慣化する必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題は、正答率が高い。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈して記述する問題は、正答率が低い。</li> </ul>	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>「国語の授業で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。</li> <li>「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。</li> <li>「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。</li> <li>学校の授業以外で1時間以上勉強する児童の割合が、全国と比べて低い。家庭学習の習慣化を図る必要がある。</li> <li>朝食を食べることや同じ時刻に寝ること、家の人と将来のことについて話すことなどの割合が全国と比べて高く、家庭での生活習慣が身に付いている。</li> </ul>

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 1単位時間の学習の充実 (6月21日に、学力向上推進担当者による提案授業と、学力向上研修を実施)
  - ・ 提案授業を基にした学力向上研修会を開催し、授業改善に向けた5つのポイント(①学習規律の確立 ②めあてとまとめの板書 ③発問の工夫 ④話し合う活動と書く活動の充実 ⑤振り返りの時間の確保)についての共通理解を図った。
- 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果による校内研修 (8月31日に実施)
  - ・ 今年度の結果と、経年比較による結果を分析する。
  - ・ 学力調査結果からの課題と対策の共通理解を図る。
  - ・ 生活習慣、学習習慣の調査結果概要からの実態把握をする。
  - ・ 正答率の低い問題を確認し、実際に解く。
- 自主学習の鴨生田スタンダードの確立を目指す校内研修(8月31日に実施)
  - ・ 家庭学習の取組についての共通理解を図り、全校で実施する。
- 学力向上のための特設時間の実施
  - ・ 朝自習と朝の裁量時間で、全校一斉に実施する[鴨生田タイム]を設定する。  
(月…一斉読書、木…アシストシートの活用、金…計算練習)
  - ・ ひまわり暗唱発表会を開催する。(11月22日に実施予定)
  - ・ 放課後の補充学習を抽出児を対象に取り組む。
- 北九州市学力定着サポートシステムの活用
  - ・ 単元学習の診断的・総括的評価として活用したり、家庭学習における課題として取り組ませたりして、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る。
  - ・ 学力向上推進委員会を設定し、各学年における北九州市学力定着サポートシステムの活用状況を確認する。(10月31日に実施予定)
- 「書くこと」の習慣化
  - ・ 学習終末の振り返り活動を記述形式で行う。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習への働きかけ
  - ・ 6月の学級懇談会の際、1年生の保護者向けに「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した家庭学習の在り方を啓発する説明会を開催した。(6月20日に実施)
  - ・ 学校通信で、家庭学習の重要性を啓発するとともに、家庭学習の時間を10分×学年+10分とし、その時間につり合う課題を与える。
  - ・ 学級指導で、家庭学習への取り組み方の指導を継続して行う。
  - ・ 「家庭における自主学習の取組(自学ノートの活用)についてのお知らせとお願い」の手紙の配布し、家庭と連携した自主学習の取組を充実させていく。(9月11日に配布)
- 家庭学習の取組についての校内研修会の開催(8月31日に実施)
  - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用方法の共通理解と共通実践を図る。
  - ・ 家庭学習の時間を10分×学年+10分とし、その時間につり合う課題を与える。
  - ・ 「鴨生田スタンダード」として、全学年統一した自主学習の内容を決めて実践する。
- 全国学力・学習状況調査の結果、及び分析内容の保護者への周知
  - ・ 学校通信、学校ホームページで発信する。
- 二島中学校区の小中一貫・連携教育の推進
  - ・ 二島中学校区の1中2小の共通事項としてのきまりを確認し、保護者への啓発も行う。
  - ・ 対人スキルアップ研修と生涯にわたるメンタルヘルス研修を合同で行う。(8月18日に実施)
  - ・ 人権教育研修を合同で行う。(二島小学校の人権学習参観と講演会 10月12日に実施)
  - ・ いじめ防止プロジェクトとして、児童・生徒の名札に着用する「オレンジリボン運動」に取り組む。
  - ・ ネットトラブル防止研修を二島小学校と合同で行う。(鴨生田小学校で1月10日に実施予定)